

回答書

三月二十四日学友会長より提出された要望書は、三月二十五日の臨時教授会において学課長より報告があり、種々検討した。要望された三項目の中、一項目と三項目についてはまだ新理事会が成立しておらず、新学長代行も着任していない現段階において論ずることは時期尚早であると判断した。この二項目については、学長代行の着任とすべく近い将来において検討し可ければ存じたい。

とは当然である。二項目に及げられた「和解」については、極めて苦渋に満ちたものである。この「和解」は公正な事態の解決であり、たとえ考えていない。ただ、大学のためを考えると一歩退いて下さる。真下・山脇両先生をはじめ理事・評議員の地位を退いて下さる。若し先生自己犠牲に感謝する以外にはない。大学正常化を妨げないよう、

ていつかの原因を排除するに  
いかざりぬ。  
しかしこの「和解」によつて、  
大学の正常化が完成したわけ  
ではない。むしろそのための  
第一歩をふみ出すことが可能  
になつたに過ぎない。

大学の正常化はこれから  
始めるのである。その道は  
いはば限りなく続くものと  
考えねばならぬ。教授会とし  
ては新学長代行とともに、  
学生諸君にももちろん、事務  
職員の方々の他の関係ある  
人々と協力して、この

大学を一日も早くまともな  
大学といえるように、更に  
けちりすべからぬ大学にな  
るよう努力する所存である。

昭和五十年三月二十五日

多摩美術大学教授会

学長会御中